

1. 単元について

対 象 学 年	中学校 第3学年
学 習 指 導 要 領	聞くこと(ウ) 話すこと(イ)
単 元 名	Unit 4 An American <i>Rakugo-ka</i> ~ Multi Plus 4 (海外旅行) NEW HORIZON English Course 3 (全12時間)
単 元 目 標	初めて日本の冬を体験する外国人に、冬にまつわる日本の風物や生活習慣について、聞き手の理解を確認しながら、積極的に話して伝えようとする。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度) 日本の冬にまつわる風物や生活習慣について、伝わりにくい所を言い換えたり具体例を挙げたりしながら、聞き手にメッセージが正しく伝わるように話すことができる。 (表現の能力) 話されることについて、分からない点を聞き返したり、さらに詳しく知りたい情報については尋ねたりしながら、正確に理解することができる。 (理解の能力) how to, what to などの疑問詞+不定詞や形式主語を用いる It ~ for ... to などの文の形、意味、用法について正しく理解している。 (言語や文化についての知識・理解)
配 慮 事 項	基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 ・単元を通し、各単位時間の導入において、『対話形式のリーディング(以下、弾丸インプットと記す)』、『不規則動詞リーディング』、『イメージングゲーム』を継続的に行うことで、新出の文型や語句に慣れさせたり、メッセージを授受する上での基本的な方法を身に付けさせる。 ・指導計画を作成する上で、本単元を「学習への意欲を高める場」「言語材料に慣れる言語活動を位置付ける場」「運用する力を高める言語活動を位置付ける場」の三つの場を意図的に設けている。特に、二つ目の場では、帯活動の中で新出の文型を繰り返し活用させながら、基礎的・基本的な内容の定着を図ろうとしている。 ・日本の冬を初めて体験する外国人に、様々な風物や生活習慣の魅力を伝えるという場面を設定することで、活動への興味・関心を高め、コミュニケーションの必然性が生まれるよう工夫する。 ・生徒の原稿において、メッセージの授受に支障をきたしたり、文法的に明らかに修正を要すると考えられる際には、教師が的確にアドバイスを与える。 ・発信されるメッセージが一方的にならないよう、聞き手側には問い返したり、感想を述べたりすることを要求し、できる限り即興的な場面が生まれるよう配慮する。 ・本単元では、Plus の活動までを含めた指導を通して、ねらいの達成を目指した。
参 考 資 料	資料1：学習プリント例(第10・11時用) 資料2：本時における生徒の作品例

2. 単元の評価規準

	ア コミュニケーションへの関 心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化につい ての知識・理解
聞 く評 こ価 と規 の準	・言語活動に積極的 に取り組んでいる。		・初歩的な英語の情報 を正しく聞き取るこ とができる。 ・初歩的な英語を、場 面や状況に応じて適 切に聞くことができる。	・言語や言語の運用に ついての基本的な知 識を身に付けてい る。
話 す評 こ価 と規 の準	・さまざまな工夫を することでコミュニ ケーションを続 けようとしてい る。	・初歩的な英語を用 いて、自分の考え や気持ちなどを正 しく話すことがで きる。 ・初歩的な英語を用 いて、場面や相手 に応じて適切に話 すことができる。		・初歩的な英語の学習 において取り扱われ た文化について理解 している。
単 元 の 評 価 規 準	(言語活動への取組) ・メッセージの伝達 を大事にして、繰 り返したり言い換 えたりしながら積 極的に対話してい る。 (コミュニケーション の継続) ・相手の話を聞いた 後で、不自然な沈 黙をせず、対話を 続けようとしてい る。	(正確な発話) ・パラフレーズなど の方法を駆使して メッセージが正し く伝わるように話 すことができる。 (適切な発話) ・相手の理解を確認 したり、聞かれた ことに対して既習 の表現を用いたり するなど、相手に 応じて話すことが できる。	(正確な聞き取り) ・インタビュー形式の 英語を、メモを取り ながら大切なポイン トを落とさずに正し く聞き取ることがで きる。 (適切な聞き取り) ・一つのテーマについ て話されるまとまっ た英語を、聞き取れ なかった部分やさら に聞いてみたい内容 について、問い返し たり説明を求めたり しながら理解するこ とができる。	(言語についての知識) ・疑問詞 + 不定詞や It ~ for ... to の文 型の形、意味、用 法を理解している。 (文化についての理解) ・日米の文化の違いの 一例として、レスト ランでのオーダーの 仕方の相違や、「す みません」と I'm sorry. の表現内容や 用いれる状況の違い を理解している。
単 位 時	ペアでの対話の場 面で、自分の経験 とつなげながら話 を続けている。	自分のことや身の 回りのことについ て適切に話したり 相手に尋ねたりす ることができる。	疑問詞 + 不定詞や It ~ for ... to の文 を用いた対話を聞い て、その内容を正し く聞き取ることがで きる。	疑問詞 + 不定詞や It ~ for ... to の文 型の用法を理解して いる。
	ジェスチャーや図 示などで言語を補 いながらメッセー	音調曲線に基づい て、強勢、イントネ ーション等に気を付	英語落語の小話を読 んで、あらすじや話 のおちを理解するこ	強勢、イントネーション、区 切りなど、英語の音 調の特徴を理解して

<p>間における具体的な評価規準</p>	<p>ジを伝えている。</p> <p>英語落語の小話を理解できないところがあっても、場面や状況を考え、推測しながら読み続けている。</p> <p>道案内の場面での表現を用いながら間違うことを恐れず説明したり、尋ねたりしている。</p> <p>日本の冬にまつわる風物や生活習慣の魅力を理解してもらえるように、ポスターなどを活用しながら説明している。</p>	<p>けて正しく発音し音読することができる。</p> <p>地図や路線図を見ながら、現在地・目的地・移動手段についての情報の授受を行うことができる。</p> <p>日本の冬にまつわる風物や生活習慣の魅力を書きまとめることができる。</p> <p>別の語句や表現で言い換えたり具体を示したりするなどの方法を駆使して、メッセージを相手に確実に伝えることができる。</p> <p>聞かれたことに対して間をおかずに相手が納得できるように応えることができる。</p>	<p>とができる。</p> <p>落語家ビルクラウリーへのインタビューを聞き、メモを取りながら、具体的な内容や大切な部分を聞き取ることができる。</p> <p>日本の冬にまつわる風物や生活習慣についての英語を話し手に聞き返したりしながら内容を正しく理解できる。</p>	<p>いる。</p> <p>レストランにおけるマナーなど、日米間のコミュニケーションの図り方の相違を理解している。I'm sorry. と「すみません」の表現内容や用いられる状況の違いを理解している。</p> <p>道案内の場面特有の定型表現を理解している。</p>
----------------------	---	--	--	---

3. 指導と評価の計画（全12時間）

時	ねらい	学習活動	評価規準				評価方法	指導・援助
			ア	イ	ウ	エ		
1	It ~ for ... to の文型を用いて自分のことや身の回りのことについて適切に尋ねたり、話したりすることができる。	<p>【導入】 帯活動（弾丸・不規則動詞・イマジネーション） 学習課題の提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>It ~ for ... to の文型を用いて自分の経験とつなげながらペアで対話をしよう。</p> </div> <p>【展開】 フレームを基に、+ の部分を加え表現する。 A: Is it easy for you to write ___? B: Yes. It's easy for me. A: [Will you teach me how to write it?] · · · (+)</p> <p>【終末】 対話活動で用いた英語をシートに書き記す。</p>					・活動の観察	・モデルダイアログと日本語訳、あるいは形容詞や動詞句のワードバンクを必要に応じて活用させる。
2	本単元での学習内容や進み方を理解し、課題をもつことができる。	<p>【導入】 帯活動 単元の学習活動のイメージをつかむ。課題提示 Karen asked me, " How do you spend Oshougatsu? " At first I tried to say about the special meal. But it was hard for me to tell her about <i>Osechi-ryouri</i>.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>日本の冬・体験ツアーに外国の方を招待しよう。</p> </div> <p>【展開】 単元のねらいや終末で取り組む活動を知る。 学習の進み方を知る。</p> <p>【終末】 学習への願いをプリントに書きまとめる。</p>					・活動の観察	・自然な音声と速さで話される英語を聞かせる。
	ジェスチャーや具体物提示など、言語を補う方法の有	<p>【導入】 帯活動 学習課題の提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>扇子のいろいろな使い方をジェスチャーも添えな</p> </div>						

3	効性を理解することができる。	<p>から伝えてみよう。</p> <p>【展開】 モデルフレームを用いながら、ペアで教科書以外の扇子の用途について伝え合う。 A: I'll show you how to use it. Look at me. B: Are you writing? A: Yes, I am. B: Oh, it's a pen. A: That's right.</p> <p>【終末】 対話で用いた英語をプリントに書きまとめる。</p>					<ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察 ・相互評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な表現や言語以外の方法でも補えることを示し、豊かな表現力と積極性を培う。
4 ・ 5	状況を十分に理解した上で、登場人物の心情や情景が伝わるように音読することができる。	<p>【導入】 帯活動 学習課題の提示</p> <div data-bbox="408 891 756 1016" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>クラウリーさんになりきって英語小話に挑戦しよう。</p> </div> <p>【展開】 本文を読みながら、日米のレストランでの習慣の違いについて理解する。 音声教材（あるいはALTの範読）を聞きながら、英文に音調曲線、アクセントの強弱記号を書き込む。 特に台詞の部分に焦点を当て音読練習を行う。 個人練習 ペア練習する。</p> <p>【終末】 スクランブルの形態で音読交流する。</p>					<ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察 ・学習プリントへの記入状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の『音調曲線』が記されたシートを準備し、記号に従って練習させる。
6	言葉での説明が十分ではない場面で、それを補うためにボディーランゲージやパラフレーズなどの方法を駆使	<p>【導入】 帯活動 TTによる対話を示す。 学習課題の提示</p> <div data-bbox="408 1776 756 1901" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>メッセージを伝えるいろいろな方法に挑戦しよう。</p> </div> <p>【展開】 教科書 Your turn 【A】 ・ジェスチャーを使って表現 教科書 Your turn 【B】</p>					<ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察 ・相互評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・事物の色、形、大きさのような外観について

	<p>してメッセージを伝えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言い換え表現（パラフレーズ） 公衆電話が近くにあるかどうか尋ねたい時（教科書より） ・I'd like to use a phone. Do you know if there is a phone box near here? <p>【終末】 教科書以外の Case Study 風邪薬を飲みたいのでお湯がほしいことを伝えたい時 etc</p>					<p>は、形容詞が有効であることを個別に指導する。</p>
7	<p>インタビューを聞き、効果的にメモを取りながら、人物についての具体的な内容を聞き取ることができる。</p>	<p>【導入】 帯活動 学習課題の提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>健のクラウリーさんへのインタビューを聞き、取材メモを取ろう。</p> </div> <p>【展開】 教科書【Step 1】を完成 教科書【Step 2】を完成 《聞き取りの窓》 出身国 来日した年 来日後何をしていたか 落語を始めた理由</p> <p>【終末】 教科書【Step 3】を完成</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察 ・学習プリントへの記入状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて英文のスキプトを渡し、聞き取りの手がかりにさせる。
8・9	<p>道案内の場面で行き方を尋ねたり教えたりする定型表現を、より実際の場面で適切に使い、正しい情報の授受ができる。</p>	<p>【導入】 帯活動 TT による対話を示す。 学習課題の提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>道に迷った人を、確実に目的地まで案内してあげよう。</p> </div> <p>【展開】 本文及び Tool Box の表現を、使用場面と働きの視点から押える。 教科書【Step 1・2】</p> <p>【終末】 教科書【Option】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の地図や名古屋などの地下鉄路線図を利用する。ペアで、目的地までのスキットを図を見て作る。その際、目的地・出発点・ 				<ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・行き先の尋ね方や答え方など、文生成につまづいている生徒には、下線部を変えることで利用できる

		<p>交通手段を明確にしてルートを決める。 出来上がった対話を暗唱して言える段階まで練習する。</p>					<p>フレームを与え、必要に応じて活用させる。</p>
10	<p>冬にまつわる日本の風物や生活習慣の魅力を相手に正確に伝わるようにまとまりのある英文で書くことができる。</p>	<p>【導入】 帯活動 学習課題の提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>冬にまつわる日本の習慣の魅力を外国の方に分かるように書いてみよう。</p> </div> <p>【展開】 一例を通して、効果的な表現方法を考え合う。 For example, how do you explain “<i>Kotatsu</i>” in English ? 《形状の窓から》 <i>Kotatsu is like a table. It is covered with a futon. It is a Japanese blanket.</i> 《機能や用途の窓から》 We use it when it's cold. We sit and put our legs under it.</p> <p>【終末】 4人のトピック別の小グループを構成し、交流したことを生かして表現を練り上げる。 かまくら / 鍋物 / おせち料理 / 初詣 / 雪祭り / 福笑い / カルタ / 雪合戦</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察 ・学習プリントへの記入状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ風物のどんな魅力を伝えたいのかを明らかにさせた上で、「be + 形容詞」「一般動詞 + 目的語」などの基本形を示し、表現の参考にさせる。
11 本時	<p>日本の風物の特徴や魅力を伝えるために、相手の理解に応じて具体例を挙げたり目的や用途を添えたりするなど場に応じて正しく話す</p>	<p>【導入】 帯活動 T-Tによる対話を示す。 学習課題の提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>『日本の冬・体験ツアー』に外国の方を誘ってみよう。</p> </div> <p>【展開】 メッセージを確実に伝えるために、本時大事にするポイント（具体例示・言い換え）を確認する。 相手のコメントに対してどう言い添えるのかを想定し</p>					

	<p>ことができる。</p>	<p>て実演する。 ポスターセッション グループメンバーのうち一人が自分たちの選んだ風物について他のグループの仲間に説明をする。 表現をお互いに学び合わせる。</p> <p>【終末】 ALT に実際に説明をする実践的な場を設け、どのグループの紹介が魅力的だったのか理由を付けてコメントをしてもらう。 自分が実際に行ったやりとりを英文に書きまとめる。</p>					<ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察 ・評価カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・メッセージのどの部分が主張点なのかを整理した上で説明に臨ませる。 ・途中で広げたい表現を意図的に取り上げる。
12	<p>相手の理解に応じた方法を選択して正しく話すことができる。</p>	<p>教師が直接、前時に評価できなかった生徒のポスターセッションを聞く。その後インタビュー形式でプレゼンターの反応を評価する。</p>					<ul style="list-style-type: none"> ・面接法 	<ul style="list-style-type: none"> ・別室で一人ずつ行う。

4. 単位時間の授業展開案

(1) 本時のねらい

- ・日本の風物の特徴や魅力を伝えるために、相手の理解に応じて具体例を挙げたり目的や用途を添えたりするなど、場に応じて正しく話すことができる。

(2) 本時の位置 11 / 12時

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	評価について	指導・援助
導 入	<p>《Team-Teaching による指導》 帯活動（弾丸インプット、不規則動詞の活用表リーディング、イマジネーションゲームを行う。） 本時の題材に関する T-T の対話を聞く。 A: Yesterday I talked with Matt about <i>Oshougatsu</i>. But he didn't know it well. So I tried to invite him <i>Osechi-dinner</i>. It was hard for me. B: Was he interested in it? A: I don't think so. Then he answered, "No, thank you." . . . 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>『日本の冬・体験ツアー』に外国の方を誘ってみよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・イマジネーションゲームではペア活動の後、全体の場で用いたヒントの交流を行い、表現力やコミュニケーションへの態度面にかかわるよい姿を継続的に認め、励ます。 	<p>一人一人が確実に取り組み、基礎・基本を身に付けるよう、つまずいた子に対しては個別指導に当たる。</p> <p>生徒の反応を確かめながら、自然な英語の音声と速さで話される対話を聞かせるよう心がける。</p>
展 開	<p>どう表現したら魅力や特徴がよりよく伝わるかについて、聞き手を意識しながら小グループ（4人）で練習する。 Case Study の手法で練習する。 ポスターセッションをする。 ・グループメンバーのうち一人が自分たちの選んだ風物について他のグループの仲間説明をする。4回ローテーションし全員が一回説明の機会をもつ。 途中で広げたい表現を意図的に取り上げる。 ALT に説明をする実践的な場を設ける。 自分が実際に行ったやりとりを英文に書きまとめる。</p>	<p>ア - イ - ウ -</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の観察 ・プレゼンターに対して、JTE と ALT も質問をしその受け答えの内容や表現のよさを評価する。 ・ALT は、どのグループの紹介が魅力的だったのか（どのツアーに参加したいか）を実際に理由を付けてコメントする。 	<p>同じトピックを扱ったグループ内で予想される質問を互いに出し合い答え合わせをさせる。 メッセージを確実に伝えるために本時大事にするポイントを確認する。 ・別の語での言い換え ・具体例の提示 中心となる言語材料等を適切な場面で活用している例を紹介する。</p>
終 末	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>I'll tell you how to use <i>kamakura</i>. In winter we have snow in Japan. So children enjoy making it. It's a snow house. People can spend time in it. I don't like a cold place. Don't worry. We can bring a Japanese stove, Hibachi. I'm sure you can enjoy in it. 【かまくら】</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッションの中で、自分がとっさに言えた表現を振り返り、学習プリントに記入する。（活動中に全員を評価することはできないため、これをもって一人一人の見届けの材料とする。） 	<p>書くことが苦手な生徒には、カタカナなどの表記も認めながら、音声面での活動の足跡を残せるよう働きかける。</p>

5. 評価の実際と個に応じた指導事例

(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

イ -

別の語句や表現で言い換えたり具体を示したりするなどの方法を駆使して、メッセージを相手に確実に伝えることができる。

(2) 評価の実際

評価の方法

活動の観察 (ポスターセッションでの評価)

- ・グループメンバーのうち一人が自分の座席に残り、テーマについて他のグループの仲間に説明をする。これを4回ローテーションし、全員が一回説明の機会をもつ。その際、プレゼンターは、聞き手からその場で出された質問に対して規準に示したような方法を用いながら即応する。
- ・JTEとALTはそれぞれ別のグループに参加し、質問やコメントを入れながらプレゼンターの受け答えの内容を評価する。

インタビュー

- ・本時、評価できなかった生徒については、次時に教師が面接によって同様の評価をする。また、授業の終末に書き残した「学習プリント」を評価の材料にする。

評価の決定

- ・質問や相手からのコメントに対し、準備したスクリプト以外の英語を用いて受け答え、相手にメッセージが伝われば (B以上)と判断する。

(例1) *kamakura* について

Presenter ... People can spend time in it.

Audience ... Is it very cold inside it? I don't like a cold place.

Presenter ... Well... Don't worry. We can bring a Japanese stove, Hibachi and kotatsu.

Audience ... What is *kotatsu*?

Presenter ... Kotatsu is a table with a heater.

(例2) *Osechi-ryouri* について

Presenter ... I'm sure you can enjoy a lot of food.

Audience ... I don't like meat and fish. I'm a vegetarian.

Presenter ... OK. You can eat other delicious food. For examples, *nimono*: boiled vegetables. It's good.

(3) 個に応じた指導の実際

個の学習状況に応じた手立て

- ・即応力が著しく不足していたり、英語を話すことに強い抵抗を感じたりしている生徒に対して原稿を見ないで自信をもって話せるよう、丁寧に個別指導を重ね、音声面・態度面のよさを認めながら励まの言葉をかけた。
丸暗記を試みるのではなく、メッセージの伝達上、欠かすことのできないキーワードを確認し、「覚えなければならない」という意識でなく、メッセージの流れを覚えるよう促した。
- ・音声化が不十分な生徒に対して
臨時の手がかりとして、カナを最小限ふった。結果として、たとえ原稿を忘れても何とか話し続けようとする生徒が増え、途中で全く話せなくなってしまう生徒はかなり減った。

単元を通した継続的な手立て

- ・帯活動でのイメージングゲーム、およびポスターセッション前のケーススタディは、不完全な英語を発信することへの不安感を少しずつ払拭し、同時に即興性を養う上で効果的であった。教師は机間指導を重ねながら、表現や発想面でのよさをその場で認め、自信をもたせる指導に徹している。